

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第 4 回相模原市広域交流拠点整備計画検討委員会		
事務局 (担当課)		都市建設局まちづくり計画部リニア駅周辺まちづくり課 電話 042-707-7047 (直通)		
開催日時		平成 2 8 年 2 月 1 5 日 (月) 1 9 時 0 0 分 ~ 2 0 時 4 5 分		
開催場所		ソレイユさがみ セミナールーム 1		
出席者	委員等	2 1 名 (別紙のとおり)		
	事務局	4 名 (都市建設局長、広域交流拠点推進担当部長、 リニア駅周辺まちづくり課長、相模原駅周辺まちづくり課長)		
公開の可否		可	不可	一部不可
公開不可・一部不可の場合は、その理由		傍聴者数 7 人		
会議次第		1 あいさつ 2 議事 (1) 第 3 回検討委員会における主な意見と対応について (2) 広域交流拠点整備計画の答申について 3 その他		

審 議 経 過

1 会長あいさつ

2 議事

主な内容は次のとおり。(は会長、 は副会長、 は委員、 は事務局の発言)

(1) 第 3 回検討委員会における主な意見と対応について

(事務局から前回意見に対する整備計画への修正対応について説明後、整備計画答申案について質疑応答を行った。)

(2) 広域交流拠点整備計画答申案について

前回の委員会においてご意見いただいた主なものを取り上げて修正を行った。文言などの細かい点についても修正を行っている。両地区の将来的な姿について、広域的な視点として首都圏南西部の特性を生かした記述を追加している。両地区の連携については、交通ネットワーク図に JR 横浜線の連続立体交差化事業の検討とあわせた整備を検討していくとし、次の段階へ向けた表現としている。橋本駅周辺地区の京王線の駅の移設については、前向きに検討していく姿勢を示している。移設の必要性については関係者間で確認しているが、実現については関係者間の役割分担に関する合意形成が必要であるという整理にしている。相模原駅周辺地区については、駅南口におけるまちづくりの考え方を追加した。

整備スケジュールは両地区を統合して何が明確になったのか。スケジュールの全体像をご説明いただきたい。

スケジュールのスタートを平成 28 年に統一するなど時間軸を修正した。また、各交流軸や両地区の連携などの関連性を明確にするため、広域交通ネットワーク、両地区間の連携、駅周辺のまちづくりなど、項目ごとに整理した中で橋本駅周辺地区、相模原駅周辺地区のスケジュールを落とし込み、広域交流拠点のスケジュールとして再整理した。

本地区全体に必要な広域交通ネットワークの考え方、両地区間の連携を深めるための課題、両地区周辺のまちづくりにおける考え方を整理している。名古屋開業の平成 39 年を目指して整備を進めるが、状況によっては平成 39 年以降になるものもあるという表現になっている。

主な修正についての説明だったが、内容についてご意見を伺いたい。

京王線の駅の移設についてかなり踏み込んだ書き方になっている。移設に係る費用負担の問題が大きな課題であると意見させていただいたが、関係機関の役割分担について協議・調整を進めると記載されている。費用の話は書きにくいことだと理解するが、小田急多摩線新駅は、整備にあたっては延伸による開発受益を踏まえ開発者負担金の導入など事業採算性の向上にむけた検討も必要と、かなり具体的な表現になっている。京王線の移設についても事業採算性は考える必要があるので、「役割分担」について具体的に説明いただきたい。

役割分担については、事業費の話も含まれることだが、現段階では整備にあたっての様々な手法などが考えられる状況において、実際の開発に係る関係者などが明確になっていないこともあり、そういった部分も包括した表現としている。

小田急多摩線の延伸と少し温度差があるのではないか。

新線と既設の移設なので表現が変わるのはやむを得ない部分でもある。

小田急多摩線の延伸については、長年にわたり行政、市民などと検討を重ねてきた経緯もある。関係機関で研究会を設け、事業採算性についても検討してきているので、京王線の移設とは検討の熟度が少し違うという背景をご理解いただきたい。

京王線の駅の移設を前提という表現は、一般的に考えると移設をするという解釈になると思う。移設にあたっては様々な課題があるということなので、今後も関係者間の協議をお願いしたい。

前回意見から両地区間の連携が大きな課題であるとのことだったが、本日の説明ではまだ十分な内容ではない。周辺の多摩地区などとの関連性は重要であり、今後、もう少し具体的に検討していただきたい。橋本・相模原間の土地利用ももう少し深めていくべきものであり、JR 横浜線の立体化が実現すれば線路沿いの空間利用も考えられる。そのあたりの整備方針も検討課題と考えられる。

まちづくりにおいて、リニア新駅は最大のインパクトであるので、リニア駅へのアクセスを踏まえた連携方策を考えてほしい。両駅間については、人の流れもできるような商業施設などの立地も考えられるのではないかと思う。

両地区の連携について、交通ネットワークにおいて公共交通の強化を示している。本整備計画は平成 39 年を目指したまちづくりとそれ以降のまちづくりを 2 段階で整理している。中・長期的な視点として、橋本・相模原の段階的な整備により両地区間の土地利用も変遷していくと考えている。

本整備計画をとりまとめるにあたって、橋本地区は京王線駅移設の取り扱い、相模原地区は小田急多摩線の取り扱い、さらに両地区をむすぶ JR 横浜線の連続立体交差化という、空間を決める上での大きな要素が不確定な中で整備の方向性や役割分担などは検討を重ねてきた結果を反映しているが、課題が残っているのが現実である。

両地区の役割について、もう少し具体的に記載したうえで、両地区が重なった時により魅力が増すという表現ができるよう、工夫してほしい。

これまでの検討内容をより具体的にというご意見だが、紙幅の都合から大幅な対応も難しい。可能な範囲で検討したい。

整備スケジュールについて、平成 39 年名古屋開業は JR 東海として正式に表明していることだが、平成 57 年の大阪開業をこの計画の上で長期の目標年次とされている。大阪開業を目指すというよりも、あくまで「長期」ということだと理解しているので、平成 57 年大阪開業という表現は不要ではないか。

大阪開業時にはリニア利用者も増えることが予測され、名古屋開業時から新たな段階に入ることを想定した表現であるが、再度検討したい。

大阪開業で整備が終わるかということそうではないものもある。

「長期」という表現だといつまでという目標感がなくなってしまうが、ご意見を踏まえ、修正が可能かを検討してほしい。

交通ネットワークの両地区間の連携について、橋本と相模原を行き来する手段も検討されていると思うが、この距離感のある両駅の間エリアをどのように整備していく考えなのか。この地区の居住者としては、交通状況の変化や来街者の増加に伴う治安対策などの考えがあるのかも知りたい。

両地区間の連携については、本整備計画では詳細な方策には触れていないが、

例えば公共交通でつなぐことが考えられる。また、居住者にとっては交通事情への影響が懸念されることだと思う。検討の方向性として、公共交通1つに絞るわけではなく、京王線や小田急多摩線などの不確定要素が徐々に確定していく中で、周辺の交通ネットワークも具体化されてくると考える。治安、防災、安全面などについては市全体で取り組むことであるので、事業の熟度に応じて検討していきたい。

両地区間の連携強化というのは、リニアで橋本に来た人が相模原の施設にスムーズに移動できないと両地区の一体感がなく、リニアが遠いという印象を持たれると相模原の発展にも影響する。連携強化とは交通ネットワークや長期的な土地利用の検討も重要ということだが、地区内の居住者にとっては、交通や土地利用が変化することによる対策を考えてほしいということである。

区画道路も含めた道路網の構築を考えなければならないと感じる。鉄道網が不確定な状況だが、鉄道の立体交差化は地下、高架だけの問題ではなく、周辺地域の道路網も一体的に考えることなので、検討が進む中で道路網のパターンが見えてくるものとする。

本整備計画は4章構成であるので、第4章がまとめにあたりと理解している。決まったことと決めきれていない今後検討することを整理するのが4章であり、その整理の仕方として、短期、中期、長期という時間軸と、全国レベル、首都圏レベル、両駅周辺地区を中心としたローカルレベルの空間軸で整理してはどうか。これらを組み合わせると9つのマトリックスができる。短期の課題があれば長期の課題もある。名古屋開業、大阪開業は長期のもので、それが意味することは、名古屋からリニアで東京に向かう人が橋本で降りるかもしれないという広域レベルで、この計画がどのような役割を果たそうとしているのかが重要であるが、これまで多くの議論を重ねてきたことが整理しきれていない状況も理解する。京王線の駅の移設も小田急多摩線の延伸もローカルエリアだけの話ではなく、首都圏全体の広域レベルでの利便性を向上させるということが前提であり、鉄道以外でも広域的なリムジンバスなどで橋本に人を集めるという議論もあったと思うので、広域レベルでのあるべき姿をさらに議論してほしい。

防災面についても第4章では両地区の防災を検討するという内容であるが、元々は補給廠の共同使用区域を広域防災拠点としていくことで議論が始まった。広域防災拠点という観点からも鉄道の立体化は必要であり、さらなる整理が必要である。リニアが日常になった時に、多摩や埼玉方面からどれだけ人を呼び込めるかが重要である。

後半は課題の提起と理解した。事務局においては今後、何が課題となるかを整理してほしい。本日は最終回なので、意見としてはいただくが、答申書としてまとめなければならないこともご理解いただきたい。

4章についてはタイトルと内容が一致していない印象。首都圏南西部の広域交流拠点になるために、橋本・相模原がどうあるべきかが書いてあるが、1章の内容を実現するために相模原市がやるべきことを列挙してあるものだと思う。タイトルだけをみると、多摩地域、厚木地域との連携を図るという中で、その具体の連携方策まで示されているという印象を受けてしまう。周辺地域との連携を意識して相模原市がどうすべきかを整理すべきである。4章のタイトルを変更しては

どうか。例えば、「首都圏南西部の広域交流拠点にふさわしい相模原市の都市構造」など。

今回の資料は前回意見を踏まえて修正した内容であるので、一旦ご了承をいただきたい。本日のご意見を受け、答申に向けた今後の予定を説明してほしい。

答申(案)に基づき、これまで検討してきた内容を答申としてまとめるに当たり委員会からの附帯意見について会長よりご提案がある。具体的な話は会長よりお願いしたい。

本整備計画を答申としてとりまとめるが、まだ課題が残っている状況である。答申後も市において検討を重ねていただきたいと思う点を私の方から示して、附帯意見をつけてはどうかと事務局へ提案した。提案を受けて事務局のほうで附帯意見(案)として作成いただいたので内容を確認させていただきたい。なるべく簡潔にまとめたいと考えているが、本件に関して内容の過不足などがあればご意見を伺いたい。

是非つけていただいたほうがいい。重要なポイントは整理されていると思う。言葉の表現として、両駅周辺地区の特性を生かしたという、「特性」とはこれからつくられるものなので、「役割」「魅力」「個性」などにはどうか。今あるものではなく両駅周辺地区で新しくつくられたものをあわせて、両者一体となった魅力向上が重要であるということ。

市長へ答申することになるのでご意見があれば伺いたい。答申は3月上旬を予定しているので、ご意見があれば事務局へ寄せていただき、とりまとめは一任いただきたい。いつまでにご意見をいただければよいか。

2月19日までいただきたい。

様々なご意見をいただき、まだまだ不十分であることは認識している。一つ一つ決めていかないと次に進まないの、関係者間でのさらなる協議を進めつつ、具体のイメージが徐々に見えてくるといい。その中で市民意見を取り入れながら検討を重ねてほしい。本計画は相模原市にとって極めて重要であると感じている。本委員会において活発なご議論をいただいたことに御礼申し上げたい。また、本委員会だけではなく広く市民の方のご意見も伺い、いただいたご意見に対して関係者間で協議しながらよりよい計画となるよう願う。

以上

第4回 相模原市広域交流拠点整備計画検討委員会委員名簿

区 分	氏名 役職等	出欠
1	飯島 泰裕 青山学院大学社会情報学部社会情報学科教授	出席
2	市川 宏雄 明治大学専門職大学院院長	欠席
3	岸井 隆幸 日本大学理工学部土木工学科教授	出席
4	中林 一樹 明治大学大学院政治経済学研究科特任教授	出席
5	屋井 鉄雄 東京工業大学大学院総合理工学研究科教授	欠席
6	五十嵐 淳 公募市民	欠席
7	鈴木 典子 公募市民	出席
8	中山 晃子 公募市民	出席
9	大用 尚 橋本駅周辺まちづくり推進会議構成員	欠席
10	草野 寛 橋本駅周辺まちづくり推進会議構成員	出席
11	横山 房男 相模原駅周辺まちづくり推進連絡協議会構成員	出席
12	山田 昇一 相模原駅周辺まちづくり推進連絡協議会構成員	出席
13	原 正弘 橋本駅周辺まちづくり推進会議会長	出席
14	中里 和男 相模原駅周辺まちづくり推進連絡協議会会長	出席
15	阿部 健 相模原市観光協会専務理事	出席
16	山崎 和正 相模原商工会議所専務理事	出席
17	田所 昌訓 相模原市自治会連合会会長	欠席
18	山口 拓 東日本旅客鉄道株式会社横浜支社企画部長	出席
19	二村 亨 東海旅客鉄道株式会社中央新幹線推進本部企画推進部 担当部長	出席
20	黒田 聡 小田急電鉄株式会社交通企画部長	出席
21	高山 恒明 京王電鉄株式会社鉄道事業本部計画管理部長	出席
22	三木 健明 神奈川中央交通株式会社運輸計画部長	出席
23	近藤 雅弘 国土交通省関東地方整備局企画部広域計画課長	出席 (代理:山中氏)
24	三宅 亮 国土交通省関東運輸局企画観光部交通企画課長	欠席
25	磯崎 孝喜 神奈川県産業労働局産業部産業立地課長	欠席
26	寶珠山 正和 神奈川県県土整備局都市部交通企画課長	出席 (代理:高橋氏)
27	馬場 広人 神奈川県警察本部交通部交通規制課都市交通対策室副室長	欠席
28	佐久間 大輔 神奈川県相模原警察署交通第一課長	出席
29	牧野 末次 神奈川県相模原北警察署交通課長	出席

：会長（委員長） ：副会長（副委員長）